

## 平成27年度工学系共通経費による顕彰と研究助成 成果報告書

所 属	国際開発工学専攻
研究者（ふりがな）	江頭 竜一（えがしら りゅういち）
タイトル	国際開発工学を通じたAOTULE加盟大学との学生交流
助 成 名	AOTULE加盟大学との教育研究連携助成
採択金額	500,000円
背景と目的	<p>国際開発工学科の授業科目「国際開発工学コロキウム」においては、開発途上地域に100万キロワット級の火力発電所を建設することを想定して、工学ならびに関連する分野を総括的に応用するプロジェクトの進め方を学習させている。具体的には、途上地域での電力事情、発電所建設ODA、発電プロセス、財務・経済分析理論の基礎、などの概要を講義したのち、学生をそれぞれ6～7名の3～4グループに分け、このグループごとに発電プロセスの計算、立地場所の選定、所内の配置計画、環境影響評価、財務・経済分析、等を行わせ、その結果をグループごとに発表、討論するものである。途上地域におけるプロジェクトを想定していることから、結果の発表を国際的な場で他国の学生との討論も含む形で行うことができれば、学生の理解もさらに深まるものと期待できる。</p> <p>一方AOTULEでは、毎年メンバー大学が持ち回りで学生ワークショップを開催している。ここでは幅広い工学分野からの大学院生の研究発表が主であるが、本学を含む一部のメンバー大学からは学部生も派遣され様々な活動の成果に関する発表も行われている。大学院生の研究発表はもちろん、この学部生の発表についても、ワークショップの活性化に効果を上げていると、ホスト大学や他のメンバー大学から好評を得ている。</p> <p>本助成の利用においては、昨年度までと同様に上記「国際開発工学コロキウム」におけるH27年度の4グループのうち最も評価の高いグループの中で特に評価の高い学生をAOTULE学生ワークショップに派遣し、国際的な場での発表、他国の学生との討論などを経験させること、この参加への意欲を発奮材料として本授業科目全体を活性化させること、ならびにAOTULE活動を通して学生交流を活発化させることを目的とした。</p>
実施概要	<p>上記の通り、「国際開発工学コロキウム」において評価の高かった受講生をAOTULE学生ワークショップに参加させた。詳細は以下の通りである：</p> <p><b>AOTULE学生ワークショップ</b>  日程： 平成27年11月1日(日)～3日(火)（渡航は10/31(土)～11/4(水)）  開催地： 南洋理工大学（シンガポール）  参加学生： 国際開発工学科3年生2名(日本人1名、留学生(中国)1名)  引率教員： 江頭 竜一</p>
本年度の成果	<p>上記「国際開発工学コロキウム」におけるAOTULE学生ワークショップへの派遣は本年度で5年目となる。受講学生の間にもこの派遣の試みが十分浸透し、本年度の学生4グループいずれもまたそれぞれの学生も甲乙つけがたい成績であったが、結果として下記の2名の学生を派遣することとなった。本プログラムが大きな発奮材料となり、当該授業の活性化に大きく貢献していることは言うまでもない。</p> <p>AOTULE学生ワークショップにおいては、参加、発表に先立ち、英文で書かれたA4用紙1ページの発表要旨を提出した。発表も英語によるものであり、参加した2名で発表および質疑に対応した。本学の他の学生ならびに他大学の学生の発表会場にも積極的に足を運び、熱心に発表に耳を傾けていた。授業の理解が深まるだけでなく、今後、学士論文研究、さらには大学院への進学を控える学部3年生にとって貴重な学術活動の経験になったものと思われる。本ワークショップにおいては、発表会だけでなく、主催の南洋理工大学を含む参加大学の教職員、学生と合同での市内見学、会食、などもあり、これらへの参加による他国、他大学学生との交流も深めることができた。</p> <p>以上より、派遣した2名の学生が学術活動、国際交流の経験を得ただけでなく、AOTULE活動の活発化にもつながったものと思われる。</p>

国際連携用

使用内訳書		
費 目	内 訳	金 額
備品 1		
備品 2		
消耗品		
旅 費	国外出張 (10/31~11/4, 渡航先: シンガポール, 渡航者: 江頭, 海宝, 蔣)	500,000
その他		
合 計		500,000

**記入上の注意：**

備品は、品名ごとに記入。

差額が生じた場合は、消耗品で調整。

消耗品を購入しなかった場合は、経費の差額と補填した予算科目名を合計額の内訳欄に記入。